日本經濟新聞

高コレステロールの治療薬スタチン、認知症とがんの予防にプラス

がんとアルツハイマー病は逆相関の関係です。がん患者はアルツハイマー病になりにくく、アルツハイマー病の患者はがんを発症しにくいというわけです。特にアルツハイマー病の患者のがんのリスクは半減します。

前回紹介しましたが、認知症（アルツハイマー病が全体の約７割）の発症原因の 45%が回避可能とされます。難聴と、高い悪玉コレステロール値がそれぞれ認知症の原因の 7%を占めます。

ここで、コレステロールについておさらいします。血液中に含まれる脂質には、中性脂肪とコレステロールがあります。中性脂肪は私たちが活動するためのエネルギー源になります。運動するとまず糖が使われますが、不足すると中性脂肪が使われます。体温を一定に保つのも中性脂肪の大きな役割です。ただ、余分に取ると内臓脂肪などの形で過剰に蓄えられ、生活習慣病を引き起こす原因にもなります。

コレステロールは細胞膜を構成する主要な成分で、ホルモンなどの材料にもなります。コレステロールが足りないと肌や髪のツヤが失われ、細菌にも感染しやすくなります。血管の細胞が弱くなり脳内出血などが起こりやすくなるなど、コレステロール自体は私たちに欠かせない成分です。

コレステロールは水に溶けないため、タンパク質などとの複合体「リポタンパク質」として血管内を運搬されます。リポタンパクのうち、LDL コレステロール（悪玉）は肝臓に蓄えられたコレステロールを全身へ運ぶ働きがあります。

これに対し、HDL コレステロール（善玉）には全身から余分なコレステロールを回収し、肝臓へ戻す働きがあります。悪玉が増えすぎるとコレステロールが血管壁にたまり、動脈硬化が進行します。

認知症の二大原因のひとつ、難聴を防ぐには大きな音をなるべく避けることが基本です。若い世代が一日中イヤホンで音楽などを聴いているのは危険極まりない行為です。また、補聴器を使うことで認知症のリスクを 17%下げることが可能ですが、難聴を薬で治すことはできません。

その点、悪玉コレステロールはスタチンと総称される薬で大幅に下げることが可能になってきています。つまり、認知症の原因の 7%はスタチンで解消できる可能性があるのです。

スタチンは故・遠藤章氏（東京農工大特別栄誉教授）が開発の中心となりました。心筋梗塞や脳卒中を防ぎ、認知症をも予防するこの薬は、がん予防にも役立つとされています。次回もスタチンについて考えたいと思います。

2026 年 6 月 10 日